

令和3年度 小学校学習指導要領（平成29年告示）周知資料

総合的な学習の時間

評価について

福井県教育庁



総合的な学習の時間の
評価は
何のためにするの？

+

o

•



① 子どもが自分の学習を振り返り、 次の学習に向かうため

ぼく・わたしの学習の成果は？

- どの力がどのくらい身についた？
- まだ身につけていない力は？
- これから、どの力をつける必要がある？

自分の学びを
ふりかえる

これからの
学びを考える



② 教師が指導の改善を図るため

これまでの指導の成果は？

- これまでの指導で、子どもにどの力がどのくらい身についた？
- まだ身につけていない力は？
- どの指導を改善する必要がある？

自分の指導を
ふりかえる

必要な支援が
見えてくる



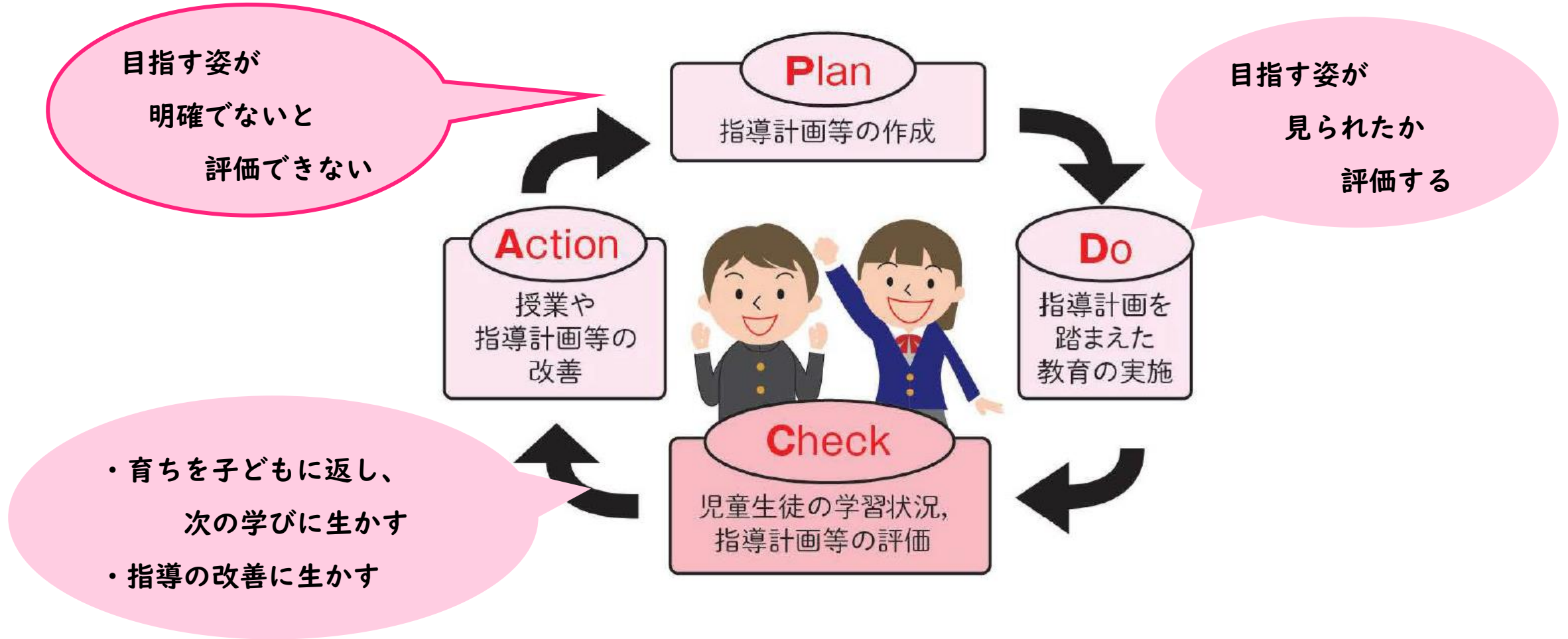
子ども
一人一人の
学習の成立を
促すため



「学習指導」はもちろん、
「学習評価」も
学校の教育活動の根幹

評価が変われば
授業が変わる





組織的・計画的に教育活動の質の向上を図る
「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割



評価の課題

挙手の回数など、
性格や行動面の傾向で
評価しがち

知識なのか？
思考なのか？
評価の観点に迷う

一人一人の学びを
見取ることが
できていない

教師によって
評価が違う

評価の結果が
子どもの学習改善に
つながっていない

活動中の見取りが
追いつかず、
ワークシートなど
表現物のみになってしまう

子どもの意見

先生によって、授業態度
を重視する先生もいるし、
テストだけで判断する先生
もいます。どう努力してい
けばよいのか分かりにくい
んです。



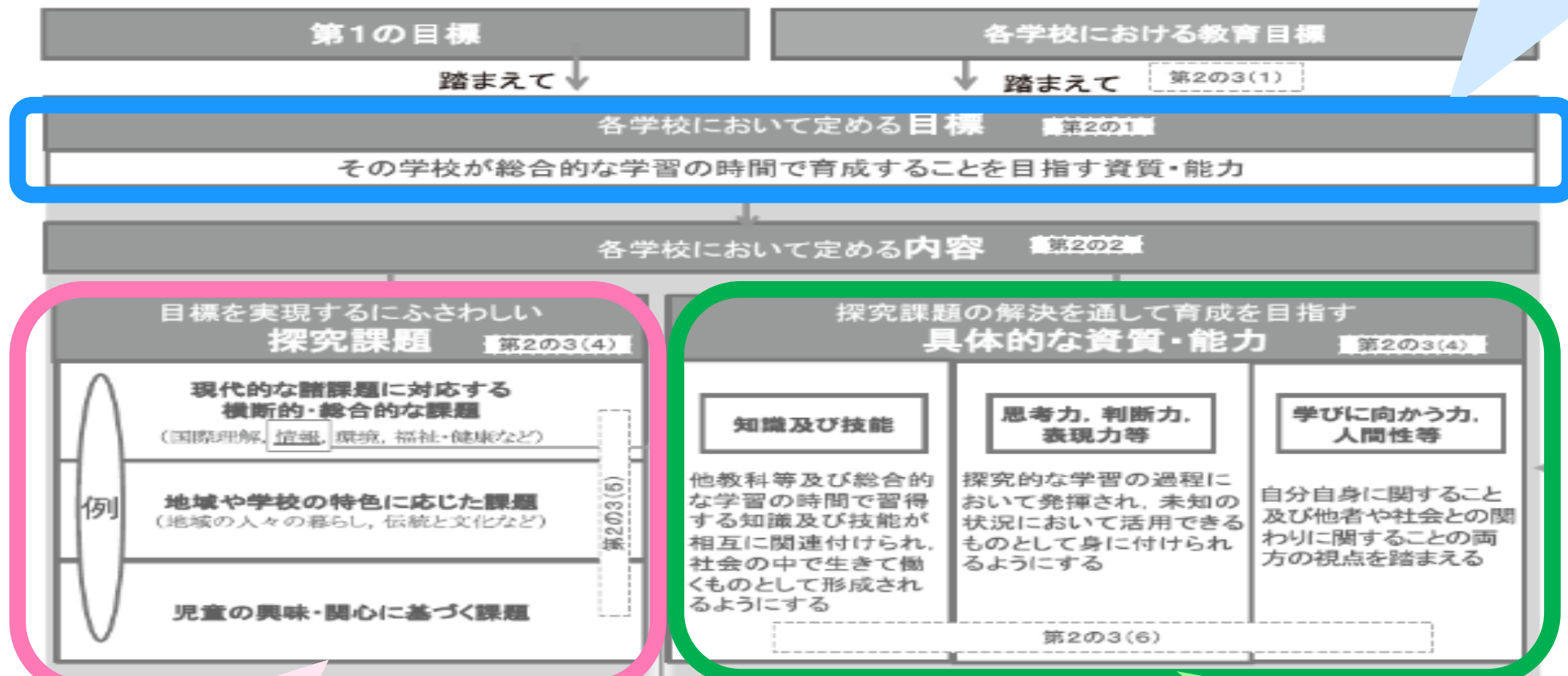
ゴールを明確に！

- ① 総合的な学習の時間の
目標を設定しよう



総合的な学習の時間の目標は、
第1の目標（学習指導要領P.8）と、**各学校の教育目標**
 を踏まえて各学校が定める。

総合的な学習の時間を通して
 育成を目指す資質・能力の
 3つの柱に沿って設定する



この学習対象を通して

この資質・能力の育成を目指す



学習指導要領における「目標」の構成

各教科等の「目標」「内容」の記述を、「知識及び技能」「思考力,判断力,表現力等」「学びに向かう力,人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理。

目 標

第5章総合的な学習の時間(小学校)

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ,横断的・総合的な学習を行うことを通して,よりよく課題を解決し,自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において,課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け,課題に関わる概念を形成し,探究的な学習のよさを理解するようにする。

【知識及び技能】

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし,自分で課題を立て,情報を集め,整理・分析して,まとめ・表現することができるようにする。

【思考力,判断力,表現力等】

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに,互いのよさを生かしながら,積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【学びに向かう力,人間性等】



各学校において定めた目標の例 (解説P66～68)

平成29年改訂小学校学習指導要領

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。【知識及び技能】

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

学校教育目標

笑顔あふれる成徳の子 ～心豊かな子 ともに学ぶ子 たくましい子～

実現を目指す児童の姿を具体的に描く

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう人間性等
心豊かな子	地域のよさ	解決の見通しをもつ	地域に目を向ける
ともに学ぶ子	人々の努力	解決に向けて協働する	多様な人々と関わる
たくましい子	支え合う必要性	根拠をもとに粘り強く取り組む	自分を見つめる

各学校が取り組んできた経験を生かす

具体化

重点化

付加

探究的な見方・考え方を働かせ、身の回りや成徳の町（地域）に目を向け、様々な人と関わることを通して、自分の設定した課題を粘り強く追究し、自分を見つめ、自己の生き方を考えることができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。

- 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- 地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

各学校において定める目標

目標を踏まえて、内容を定めよう

目標を実現するに
ふさわしい
探究課題

内容のまとめり

知識・技能

- ① 捺染ぞめは、地域に伝わる伝統文化であることを理解する。
- ② 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。
- ③ 地域の伝統文化に関する理解は、捺染ぞめを実現するために解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付くことができる。

思考・判断・表現

- ① 地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。
- ② 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。
- ③ 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。
- ④ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる

主体的に学習に取り組む態度

- ① 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。
- ② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。
- ③ 地域のとの関わりの中で自分にできることを見付けようとする。

地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々



ゴールを明確に！

② 単元の目標を設定しよう



作成の手順①

単元の目標は、各学校が定める「探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」をもとに、単元全体を見通して作成する。(単元目標は箇条書きで複数個示す方法もある。)

単元目標

地域の伝統産業「捺染染め」の継承に力を注ぐ職人の方々と関わる活動を通して、自分が住む地域で生まれ受け継がれてきた伝統文化のよさに気づき、文化や技術の継承を願って自分にできることを考え、協働して捺染染めのよさを伝えようとするができるようになる。

以下の4つの要素を構造的に配列して作成する。

①探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動

(～を通して)

②単元において重視する「知識及び技能」

(～に気づき, ～について理解し)

③単元において重視する「思考力, 判断力, 表現力等」

(～を考え,)

④単元において重視する「学びに向かう力, 人間性等」

(～を伝えようとする, ～に生かそうとする)



③ 単元の評価規準を設定しよう



作成の手順②

「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

目標を実現するにふさわしい探究課題	単元の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々	<ul style="list-style-type: none">・ 捺染ぞめは、地域に伝わる伝統文化であることを理解している。・ 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。・ 地域の伝統文化に関する理解は、捺染ぞめを実現するために 解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。・ 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。・ 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。・ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	<ul style="list-style-type: none">・ 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。・ 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。・ 地域のとの関わりの中で自分にできることを見付けようとしている。



評価規準について

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料p.43～)

目標を実現するにふさわしい探究課題	単元の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々	<ul style="list-style-type: none"> ① 捺染ぞめは、地域に伝わる伝統文化であることを理解している。 ② 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③ 地域の伝統文化に関する理解は、捺染ぞめを実現するために解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ② 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③ 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③ 地域のとの関わりの中で自分にできることを見付けようとしている。

(小解説P127、中解説P123)

児童(生徒)に個人として育まれるよい点や進歩の状況などを積極的に評価することや、それを通して児童(生徒)自身も自分のよい点や進歩の状況に気付くようにすることも大切である。

グループとしての学習成果に着目するのではなく、一人一人の学びや成長の様子を捉える必要がある。

- ① 「概念的な知識の獲得」
- ② 「自在に活用することが可能な技能の獲得」
(いつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの児童の姿)
- ③ 探究的な学習のよさの理解

- ① 「課題の設定」
- ② 「情報の収集」
- ③ 「整理・分析」
- ④ 「まとめ・表現」

- ① 自他を尊重する
「自己理解・他者理解」
- ② 自ら取り組んだり力を合わせたりする
「主体性・協働性」
- ③ 未来に向かって継続的に社会に関わろうとする
「将来展望・社会参画」



「単元の評価規準」の作成のポイント

(1) 「知識・技能」

「知識・技能」の観点については、

①概念的な知識の獲得

②いつでも、滑らかに、安定して、素早く発揮することが可能な技能の獲得

③探究的な学習のよさの理解

の三つに関する評価規準を作成することが考えられる。

① 事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している児童生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、伝統文化に関する概念的な知識の獲得として評価規準を設定している。

② 技能が特定の場面や状況だけではなく、日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付いているか、具体的には技能がいつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの児童生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ほかにも例えば、「ウェブサイトから、検索ソフトを使って、短い時間にたくさんの情報を収集している。」などとして評価規準を設定することが考えられる。

③ 探究的な学習のよさの理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解しているなどの児童生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、学習と伝統文化とのつながりの理解として評価規準を設定している。

知識・技能

① 捺染ぞめは、地域に伝わる伝統文化であることを理解している。

② 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。

③ 地域の伝統文化に関する理解は、捺染ぞめを実現するために解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。

「単元の評価規準」の作成のポイント

(2) 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の観点については、

「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を児童生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

① 「課題の設定」については、実社会や実生活に広がっている複雑な問題に向き合っ、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになることが期待されており、例えば、「複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する。」「解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる。」などの視点による設定が考えられる。

② 「情報の収集」については、情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになることが期待されており、例えば、「情報を効率的に収集する手段を選択する。」「必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する。」などの視点による設定が考えられる。

③ 「整理・分析」については、収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見出すことなどが期待されており、例えば、「異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする。」「事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ。」などの視点による設定が考えられる。

④ 「まとめ・表現」については、整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ることで対象や自分自身に対する理解が深まることなどが期待されており、例えば、「相手や目的に応じて効果的な表現をする。」「学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす。」などの視点による設定が考えられる。

思考・判断・表現

- ①地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。
- ②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。
- ③課題解決に向けて、観点到に合わせて情報を整理し考えている。
- ④相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。



「単元の評価規準」の作成のポイント

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視することとしている。これらは、自他を尊重する「①自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を見童生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

① 「自己理解・他者理解」については、例えば、「自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。」「異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。」などの視点による設定が考えられる。

② 「主体性・協働性」については、例えば、「自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む。」「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む。」などの視点による設定が考えられる。

③ 「将来展望・社会参画」については、例えば、「自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける。」「実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む。」などの視点による設定が考えられる。

主体的に学習に取り組む態度

- ① 課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。
- ② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。
- ③ 地域のとの関わりの中で自分にできることを見付けようとしている。



評価規準の指導計画への位置付け

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料)

評価規準を作成する際には、単元で行う学習活動やどのような資質・能力を重視するかによって具体的に記述する
児童の姿となって表れやすい場面、全ての児童を見取りやすい場面を選定することが大切である。(評価資料p.43)

目標を実現するにふさわしい探究課題	単元の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々	① 捺染ぞめは、地域に伝わる伝統文化であることを理解している。 ② 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③ 地域の伝統文化に関する理解は、捺染ぞめを実現するために解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① 地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ② 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③ 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	① 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③ 地域のとの関わりの中で自分にできることを見付けようとしている。

学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要。
観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要である。(評価資料p.46)

	ねらい・学習活動(時数)	知	思	態	指導のポイント等
1 捺染ぞめに出合おう(15)	・職人に話を聞くなどして捺染ぞめを知り、捺染ぞめを行う学習計画を立てる。(3) ・自分たちで染めるために必要な情報を集める。(6)			①	・捺染ぞめに出会う場として、職人を招く。 ・染めるために必要な情報は何かを考える。 ・色々な調査方法を知る。 ・KJ法的手法やウェビングなどで情報を整理する。
	・試しの染めを行い、職人の作品と比較する。(4) ・体験を振り返り、次への課題をもつ。(2)	①			・体験で感じたことを文に書いて残すようにする。 ・職人から作品を評価してもらう場をもつ。
職人を目指そう(20)	・自分だけの手ぬぐいづくりに向けて学習計画を立てる。(2)			①	・試しの染めと職人さんの言葉をもとに考える。
	・工場見学や職人の話から情報を集めるとともに、デザインを決めて準備する。(10) ・捺染ぞめで手ぬぐいを染める。(6)	②	②		・課題解決に向けた情報の収集を行う。 ・1回目と比較して、成長を感じられるようにする。
	・体験を振り返り、次の活動への思いを高める。(2)			③	・職人の思いを聴く機会をもつ。
3 捺染ぞめを伝えよう(15)	・捺染ぞめやそのよさを伝えるための学習計画を立てる。(2)			②	・これまでの体験や職人の言葉をもとに考える。
	・伝える内容と方法を決め、これまでの体験や調査内容を目的に合わせて再構成する。(8)		③		・これまでに得た情報を手軽に閲覧できるようにしておく。
	・学校での発表の機会など使って、地域の人やお世話になった人に伝える。(3)		④		・捺染ぞめの内容と自分たちが学んだことの両方を伝えるようにする。
	・これまでの体験と自分が学んだことを振り返る。(2)	③			・単元を通して学習を振り返る。



評価の方法について

- ①信頼される評価方法
- ②多面的な評価方法
- ③学習状況の過程を評価

この3点が重要！

教師の観察記録、自己評価、相互評価等の評価記録(カード・タブレット) レポート、論文、ポスター、外部講師、保護者や地域の人々のコメント、作品、ポートフォリオ 等

どの場面で
誰がどう評価するか
を事前に決めておく



どんな姿を評価するの？

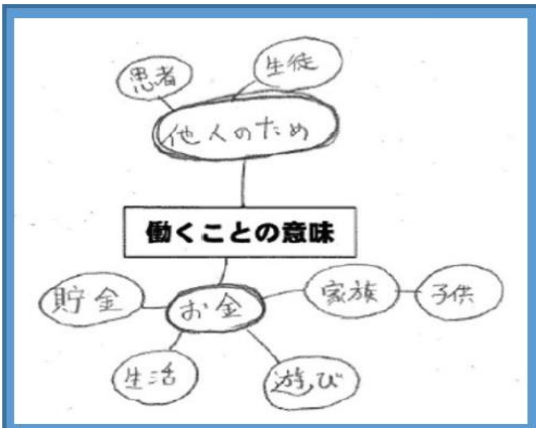
「何ができるようになったか」を、観点別学習状況の評価規準に照らして評価しよう (評価資料P58)

評価規準「知識・技能①」

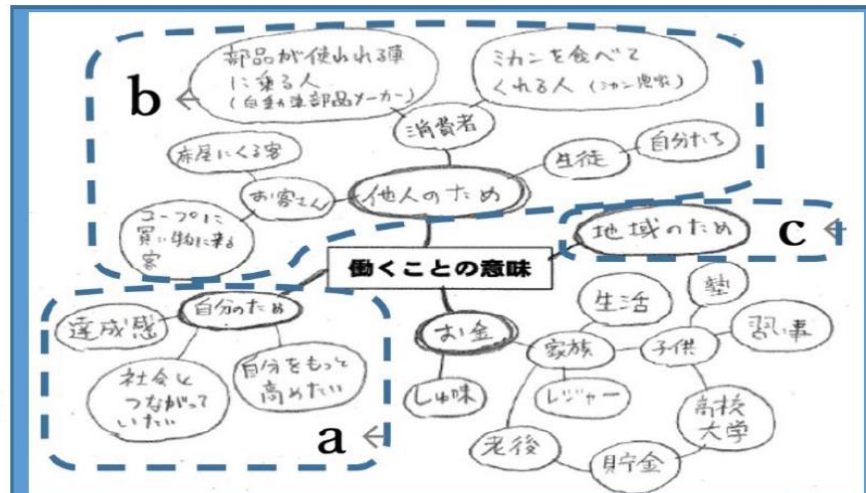
働くことの意味について、**収入を得るため以外**にも、**自分自身**や**他人のため**になっていること、**地域社会のため**になっていること、それらは自己の成長とともに見いだすことができることに気付いている。

【評価場面・方法】

活動から得られた情報を整理・分析する場面で、ウェビングマップとワークシートに記述したものを「知識・技能①」の評価資料とした。



働く理由は、お金をもらうためだと思います。お金がないと、生活していけません。家族を養うのもお金が必要です。あと、学校の先生は生徒のために、病院の医者は患者のために働いているとも言えるので、他人のためでもあると思います。



インタビューやアンケートから、働く理由は「お金のため」「他人のため」「自分のため」①「地域のため」の4つであることが分かりました。②一番意外だったのが、「自分のため」という意見です。今度職場体験で行く事業所の方も、「自分の技術をさらに高めたい」と話していました。また、「他人のため」とは学校の先生とかしか考えていませんでしたが、ミカン農家の方が「このミカンを食べさせてくれる人のため」と言っていて、③直接会わない人も含まれるんだと思いました。

図1：単元導入時の生徒Aのウェビングマップと記述

図2：整理・分析時の生徒Aのウェビングマップと記述

- 図2-a: 「自分のため」を追加
 - 下線②: 新たな視点を自覚している
 - 図2-b: 間接的に人と関わる仕事
 - 下線③: 間接的に人と関わる仕事
- ↓
- 働くことの意味について収入を得るため以外に、自分自身や他人のためになっていることを概念的に理解している。
- 下線①: 「地域のため」
 - 図2-c: 「地域のため」
- ↓
- 具体的な情報がないため概念化に至っていない。
- ↓
- (教師) 他者のために働くことで地域社会が活気付いた事例はなかったのかな？
- ↓
- (生徒A) 各事業所が協力して地域のために定期的に開催しているイベントの存在に気付く。

観点別学習状況の評価の進め方

(評価資料P61, 62)

評価規準「知識・技能③」

働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。

【評価場面・方法】

小単元1の活動で働くことの意味についての概念的理解を得た。また小単元2で働くことの意味をもつためには、自分自身が成長しなければならないことを知った。小単元1・2を踏まえて、事業所に礼状を書く場面で、事業所に宛てた礼状等を「知識・技能③」の評価資料とした。

生徒Cが書いた「事業所への感謝の手紙」から

探究活動を始める前までは、働くことの意味について、そこまで深く考えることはありませんでした。けれども、探究活動を進めながら、働くことに多くの意味を見付け出すことができました。そしてそれは、自分が変わらないと見えてこないことも知りました。

それが分かったのは、〇〇さんが言われた「仕事が魅力的になるのではない。仕事に魅力を感じる人間にならなければならないんだ」という言葉です。^①最初は、分かったような分からないような感じでしたが、そのことを考えながら職場体験で実際に働いてみて、その意味が少しずつ分かってきたような気がしました。それが分かってくると、^②更に仕事に魅力を感じ、最終日は初日以上に働くことの意味を感じながら体験をすることができました。(後略)

職場体験中の生徒Cの様子(生徒が訪問した際の担当職員の記録)

1日目	緊張しながらも、お客に挨拶をする。休憩時間になっても、お客の話をうなずきながら聞いていた。
2日目	緊張がだいぶほぐれていた。お客に元気に挨拶ができる。店主の指示がなくても、自ら進んで作業をしていた。 「店主が言ったことが少し分かった。例えば、お客さんが気持ちのよい挨拶ってどんなだろう、と考えるようになった。(本人談)」
3日目	挨拶だけではなく、客に話しかける場面が多く見られた。本人曰く「最初は緊張して何もできなかった分、頑張りたい」とのこと。 お客に積極的に話しかける。進んで作業をし、店主の動きもよく観察している。 生徒Cに「三日間、仕事についてしっかり考えながら活動していたね」と声をかけると、「この三日間で自分も少し成長できた気がする」とコメント。

(生徒Cの事業所への感謝の手紙)

- 下線①:自分の成長と仕事の関係を考えながら職場体験したこと
 - 下線②:初日から最終日にかけての仕事に対する認識の変化を捉え、自己の成長を感じていること
- ※探究的な学びを通して、働くことの意味を考えることは、自分自身の成長が必要であること

(担当職員の記録)

職場体験活動時の生徒Cは、緊張しながらも前向きに取り組み、特に後半は自ら話しかけコミュニケーションを図るなど、自らの仕事ぶりを自覚し、それを改善しようとしていたことが推測できる。



(評価規準)働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。



指導要録の記載はどうするの？

- 総合的な学習の時間に行った学習活動及び各学校が定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入。
- 児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。



総合的な学習の時間で育成する資質・能力

様式2 (評価に関する記録)

生徒氏名		学校名			区分	学年	1	2	3
					学級				
					整理番号				

各教科の学習の記録											
教科	観点	学年	1			2			3		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
社会	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
数学	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
理科	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
音楽	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
美術	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
保健体育	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
技術家庭	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										
外国語	知識・技能										
	思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度										

総合的な学習の時間の記録				
学年	学習活動	観点	評価	
1				
2				
3				

特別活動の記録								
内容	観点	学年	1		2		3	
			知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
学級活動								
生徒会活動								
学校行事								

各学校が定めた目標と内容に基づき、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱を踏まえ、下記の評価の観点及びその趣旨を参考に設定する

評価の観点及びその趣旨 「改善等通知」 P.30

知識・技能

探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。

思考・判断・表現

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。

主体的に学習に取り組む態度

探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

例えば、生徒Aについては、次のような記述が考えられる。

学年	学習活動	観点	評価
2	未来の人も豊かな暮らしをするために	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	身近なエネルギー問題を探究する中で、多くの発電方法や節電の方法があることを理解し、資源が有限であることについてもグローバルな視点で考えた。限りない資源の活用と自然環境の保全の視点から、自分でできることを考え行動しようとしている。